

アーバンビレッジに住んで

上越市田圃一九 渡辺高明（北海道出身）

上越に移り住んで二ヶ月。長年の夢が叶い、感激に浸り、毎日新しい発見をし、この地での生活を楽しんでおります。

私達夫婦は北海道で生まれ育って四十年、その後仕事の関係で東京で十数年過ごしてきました。そんな二人にとって最大の悩みと云うか、関心は老後をどこで、どの様に生きるかでした。一番大事なのは環境、山、川、海が傍らにあり、自然を満喫でき、二人の趣味であるスキー、テニスが身近で出来る事。ある程度の広さの土地を求められ、年老いても生活に不便を感じない所等を考え、数年前より探し始めておりました。

そんな折、趣味のテニスで知り合いになった、埼玉在住で直江津出身の方より、上越市のJネットの事を聞き、早速入会させていただき、毎月広報を送っていただいております。その後、年数回、

花見、スキー等でこちらに来て、この地の良さを知る事となりました。また、広報等で「上越市三〇年超長期ビジョン——のびやかJプラン——」を知り、その中の「アーバンビレッジ構想」に興味を持ち、四年前より数多く足を運び検討を重ね、この地に棲む事に決めた次第です。

私達としては、一日も早く生活基盤を上越に築きたいと思い、定年前に仕事をやめて来た為、生活に対する不安はありますが、それにもまして明るく輝いた未来があると信じております。近所の方々の人間の暖かさで、見知らぬ土地に来た不安など全く感じる事なく安心して移り住む事ができました。また、趣味のテニスでも多くの仲間ができて、練習に、試合にと汗を流す毎日です。

上越に来て、人間の暖かさはもちろん、

米、酒、魚の旨さは想像以上のものでした。早速、東京や北海道の友人達に、この良さを知ってもらおうと、家に招いたり、新米を食べてもらったり、今後も冬はスキー、春には花見とこれらを通して付き合いを深めて行きたいと思っております。

外から見た上越と、実際に住んでみてギャップを感じることは多少ありますが、この地を「終の棲家」と決めたからには、最後に良かったと云える様。また、一日も早く新潟県人、上越市民として皆から認めてもらえるよう、妻と二人努力して行こうと思っております。

